

令和6年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立島根中学校

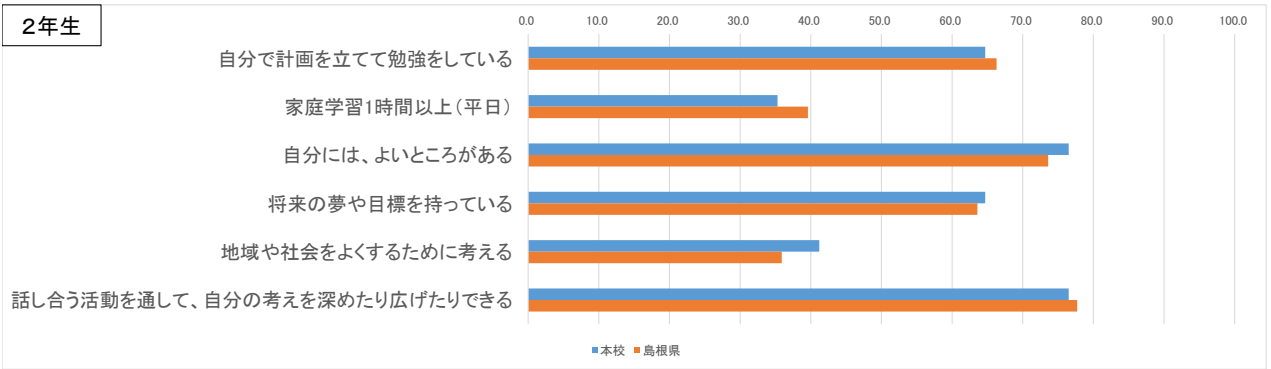
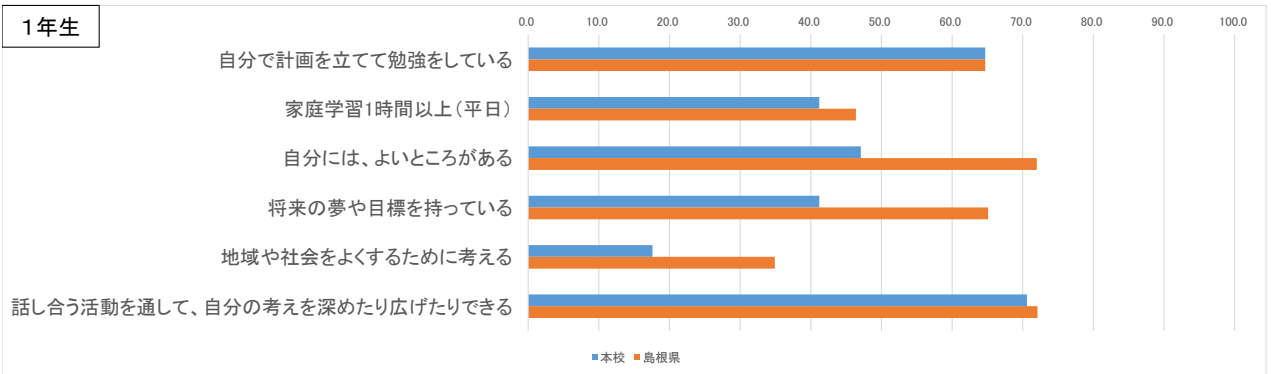
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
国語	○授業で何でも取り組んだ長文の記述問題(作文)の正答率が高かった。文字数や段落構成、自分の考えとその根拠など、条件にあった長文をしっかりと書くことができた。 ●小学校で学習した漢字を正しく書くことができない生徒が多い。限られた範囲の学習(小テストなど)については正答率が上がるので、短期記憶を長期の記憶に定着させる取組が必要である。 ●文法や語句に関する問題の正答率も低い。	○漢字の読み書きや、行書の特徴など、授業でしっかり取り組んだ内容の正答率が高い。 ○長文の記述問題(作文)で、与えられた条件のうち、自分の考えとその根拠をしっかりと書いた生徒の割合が高い。 ●長文の記述問題(作文)で、決められた長さや形式(段落構成)で書くことができなかった生徒が多い。
数学	○授業において、反復練習を行った関数と図形の移動の基本問題は正答率が高い。 ●基礎基本の問題の中でも、文字式で括弧や分数を含む問題の誤答や無回答が多い。反復練習に取り組む必要がある。 ●立式する問題と求め方を自分のことばで説明する問題の無回答が多い。文章を読んで何を問われているか理解したり、数量関係を見出したりするなど、回答するまでにいくつかの行程を要する問題を苦手としている生徒が一定数いる。	○基礎基本の内容を理解している。特に、一次関数の内容は到達目標値を超えている問題が多い。 ●文字式の計算において、分数を含む問題を苦手としている。 ●基礎基本と同様な内容でも、文章題として出題されると正答率が低くなる。文章から数量関係を見出すことを苦手としている生徒が多い。 ●問題文が長くなると、無回答が増える。
英語	○聞くこと、読むことについては前年と比較すると数値が低い一方で、書くことにおける数値は前年度を大きく上回っている。 年度当初より書く活動を多く取り入れた成果が出ている。 ●基礎的な内容の正答率が前年度と比べ大きく低いため、今後も書くこと以外にも基礎的な内容をきちんと反復して定着させていく必要がある。	○基礎的な内容の正答率については、市町村や県の平均を上回っている。 ●成果の記述に対して、活用の内容における数値は、市町村や県の平均を下回っている。基礎的な内容を継続して定着させていくとともに、基礎的な技能を活用していくことに授業で取り組んでいく必要がある。 ●書くことにおける数値は、市町村、県、校内どれも目標値から大きく低い数値となっている。話すことを書くことにつなげる活動などに取り組み、目標値に近づけていきたい。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
意識	○基本的な生活習慣が身に付いており、家庭でもしっかりコミュニケーションがとれている生徒が多い。 ●起床や就寝、メディア等の時間の管理ができていく傾向にある。 ●家庭での学習習慣の定着が身に付いている生徒が少ない。 ●地域や社会に関心をもっている生徒が少ない。 ●全体的に自己肯定感が低い傾向にある。 ●将来の展望を見出せていない生徒が多い。	○基本的な生活習慣が身に付いている。 ○学校や家庭での決まりを守っている生徒が100%であった。 ○地域の行事に積極的に参加したり、地域や社会に関心をもっている生徒が多い。 ○昨年度と比較すると、将来のことを考え、夢や目標をもっている生徒の割合が高くなった。 ●学習のために本や辞書を活用している生徒の割合が低い。 ●家庭学習の習慣が定着したもの、学習時間が短い。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R6学力調査受検者数】 1年生 17 名 2年生 17 名 (欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)